

大震災時の帰宅困難者を守る

荻窪駅前滞留者対策訓練を実施！

2月28日、荻窪駅周辺では、大規模地震等が発生した場合に備え、駅前の滞留者対策訓練を実施しました。訓練には、JR東日本や東京メトロ、バス・タクシーなどの交通事業者、地元の商店会、町会、学校関係者、警察・消防など、昨年7月に設置した「荻窪駅前滞留者対策協議会」のメンバーとなっている100名ほどが参加しました。

荻窪駅は、JRと東京メトロ丸ノ内線が乗り入れるほか、青梅街道に面するとともに、環状八号線も近くを通る杉並区最大の交通の結末点になっています。東日本大震災が発生した際には、公共交通機関が混乱し、JR線は翌朝まで運行ができませんでした。バスやタクシーに乗って帰宅しようとする人たち、都心や新宿方面から青梅街道を徒歩で帰宅しようとする人たちが、荻窪駅前の広場に押し寄せました。

そんな経験から、いざ首都直下地震が発生すれば、さらに交通網などに大きな打撃を受けることが予想されるため、駅前に滞留する帰宅困難者を安全に一時滞在施設に誘導し、食糧や飲料水の提供などの支援を行うしくみづくりが急務となりました。昨年7月24日に設置された「荻窪駅前滞留者対策協議会」の構成メンバーは、警察や消防をはじめ交通事業者、商業施設、ライフライン、都立荻窪高校、杉並公会堂など19の企業・団体で、それぞれの組織が持つ力を結集して、滞留者の安全確保に努めていきます。

本日28日午後2時、首都直下地震（M7.0）を想定した訓練が、荻窪駅構内でスタート。JR・地下鉄ともに、運行停止となり、帰宅困難者が滞留する状況となっています。滞留者役の住民を駅前広場に誘導し、まずは交通機関の運行状況を伝達する訓練が実施されました。地震の影響で、鉄道・バスは運行ができなくなり、帰宅困難者が駅前に押し寄せる状況です。滞留者の安全の確保と不安な気持ちを取り除くため、滞留者の一時的な受け入れ場所として、周辺の一時的滞在施設に誘導しました。



田中良杉並区長は、訓練開始にあたって、「東日本大震災の際には、多くの帰宅困難者が発生し駅前に滞留しました。その対策を交通機関に任せるのではなく、地域全体で協力することで問題を解決することが必要です。このような訓練を積み重ね、首都直下地震に備えていきましょう。」とあいさつしました。荻窪駅前の滞留者訓練は区内初となる取り組みで、今後も定期的実施することとしています。

【報道機関 問い合わせ先】

危機管理室防災課 電話 3312-2111
総務部広報課 電話 3312-2111